三菱マテリアル株式会社
ＩＲ決算説明資料

2012年5月15日

取締役社長　矢尾　宏

MITSUBISHI MATERIALS CORPORATION

1．2011年度　業績の概要

- 売　上　高　14,408億円（前年度比 ＋1,068億円）
- 営 業 利 益　522億円（　〃　△49億円）
- 経 常 利 益　424億円（　〃　△139億円）
- 当期純利益　95億円（　〃　△47億円）

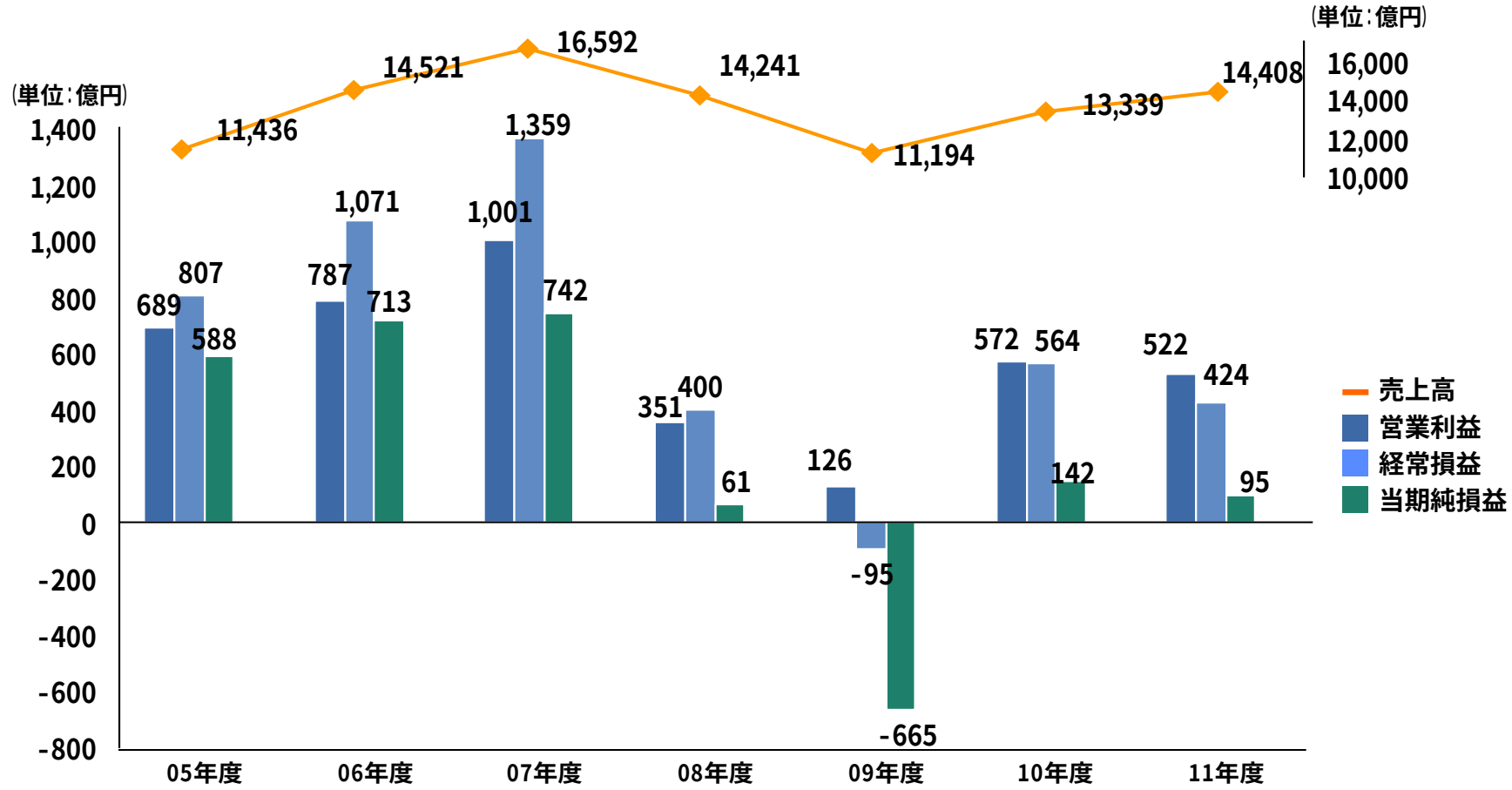
ハイライト

◆経常段階で震災影響46億円、タイ洪水による影響40億円を負担。

◆銅価は一時下落も通期では高水準を維持。(10年度369→11年度385c/lb)

◆SUMCO社再生計画に伴う持分法損失238億円を計上。

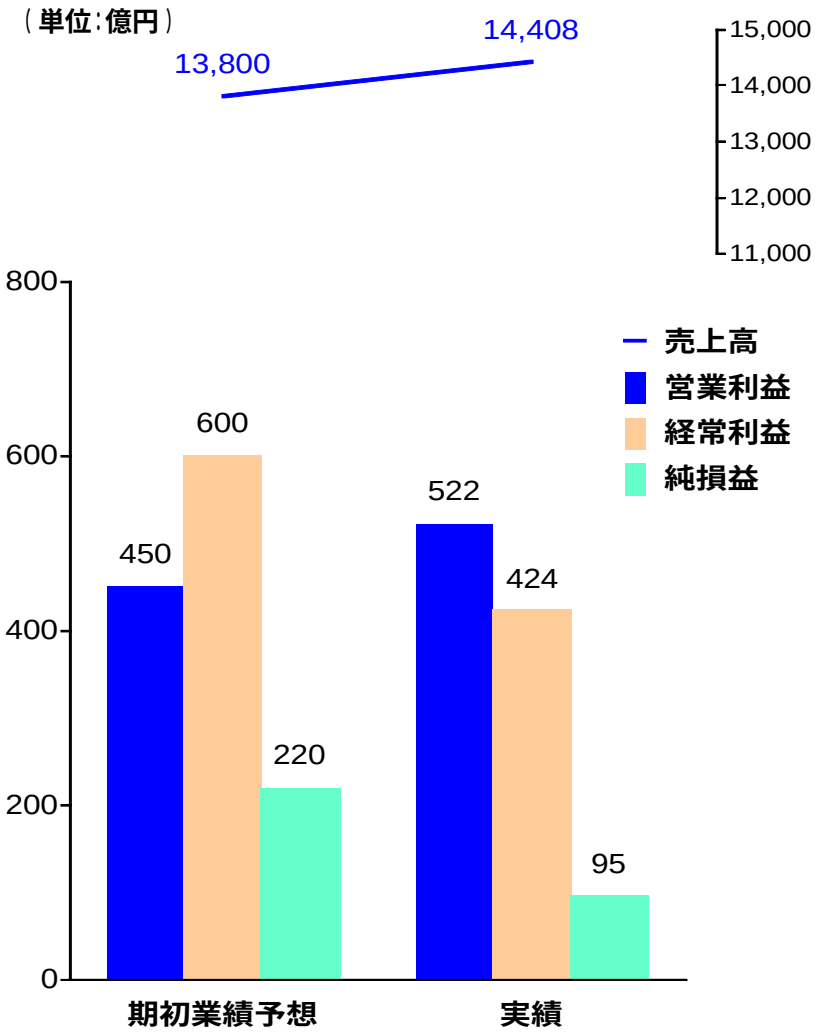
2．業績の推移



配当/株	4円	6円	8円	4円	—	2円	2円
ROA	5．3%	6．3%	7．5%	2．2%	ー0．5%	3．1%	2．4%
Net DEﾚｼｵ	2．2倍	1．5倍	1．3倍	1．7倍	2．1倍	2．0倍	1．8倍

3．中期経営計画の推進状況（1年目の振り返り①）

11年度業績予想比



前提条件

	期初予想	実績
銅価格	380 ¢	385 ¢
USD	83円	79円

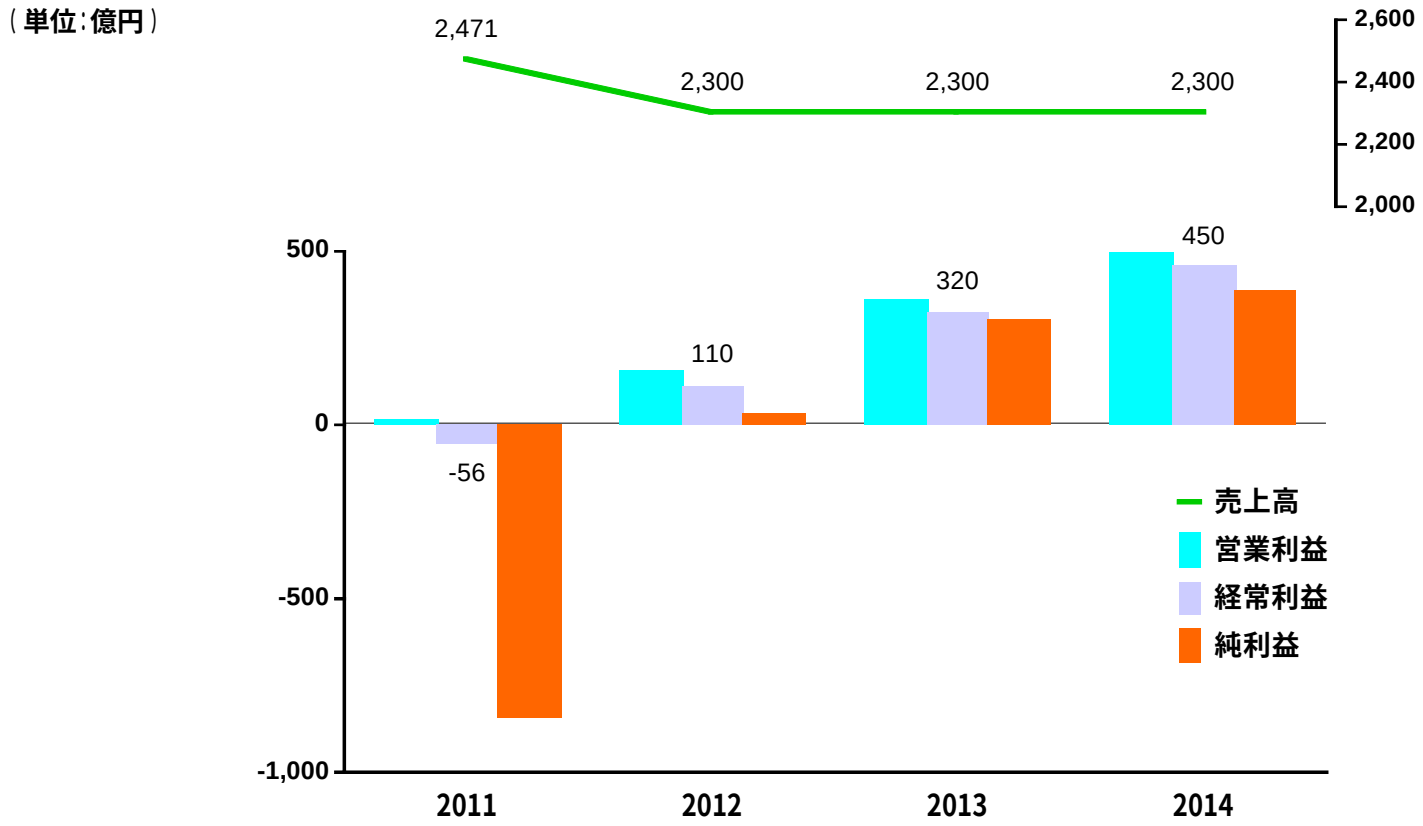
（経常利益　△176億円）

SUMCO持分法損失	△252
（予想織込14→実績△238）	
タイ洪水影響	△ 40
円高	△ 25
震災早期復旧	64
（予想織込△110→実績△46）	
その他増益	77

3．中期経営計画の推進状況（1年目の振り返り②）

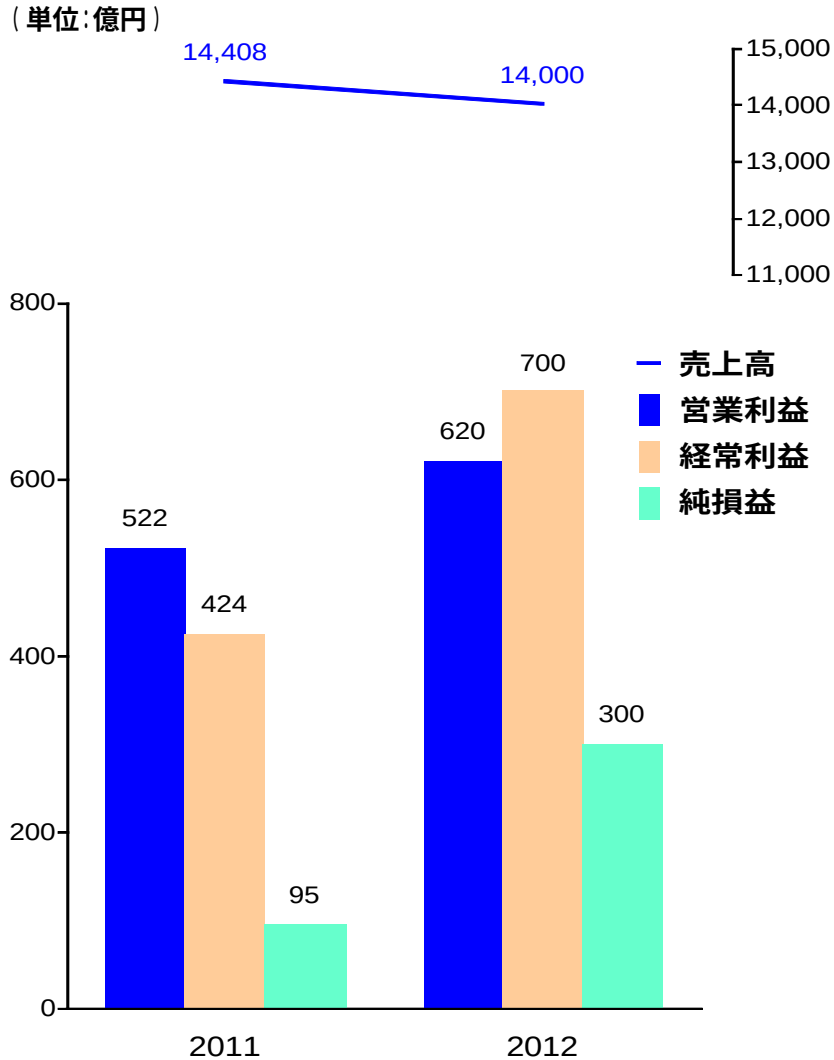
SUMCO社事業再生計画

SUMCO社は現下の厳しい半導体市況であっても、安定的な利益を確保できる事業再生計画を実施する。当社は150億円の優先株式引受により、SUMCO社の事業再生を支援する。



3．中期経営計画の推進状況（2年目の展望①）

１２年度業績予想



外部環境の現況と見通し

	2011	2012
銅価格	385 ¢	380 ¢
USD	79円	80円

（経常利益　＋276億円）

SUMCO持分法損失負担減	243
（実績△238→予想織込5）	
震災、タイ洪水影響	82
価格・数量	△ 76
その他	27

3．中期経営計画の推進状況（2年目の展望②）

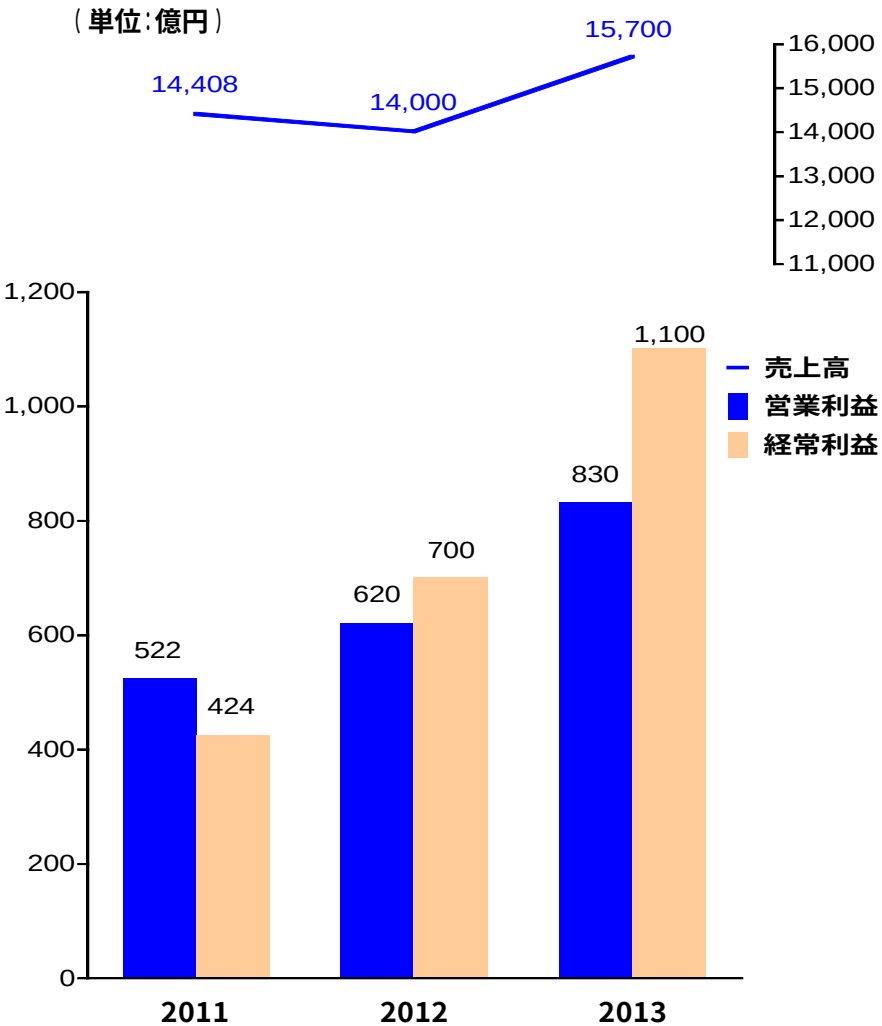
投資と財務の状況

（単位：億円）

		当初見通し	2012年3月期	2013年3月期
BS	有利子負債	7,300	7,088	7,100
	現預金	600	709	600
	ネット有利子負債	6,700	6,379	6,500
	自己資本	3,630	3,510	3,800
	ネットD/E ratio	1.8	1.8	1.7
CF	営業CF	850	915	800
	投資CF	-750	-483	-800
	フリーCF	100	432	0
PL	営業利益	450	522	620
	経常利益	600	424	700
	純利益	220	95	300

3．中期経営計画の推進状況（2年目の展望③）

12年度業績予想と13年度目標とのギャップ、成長戦略



前提条件

	2012 業績予想	2013 中計
銅価格	380 ¢	320 ¢
USD	80円	85円

経常利益　700 → 1,100億円
ギャップ 400億円を埋める増収益戦略

セメント：米国セメント事業強化
銅 事 業：加工品増販、買鉱条件向上
加　　工：超硬製品増販
電子材料：事業再生計画（SUMCO）
ア ル ミ：板事業強化
　　ボトル缶増販（輸出等）
全社共通：リサイクル増収、コスト競争力

MITSUBISHI MATERIALS CORPORATION

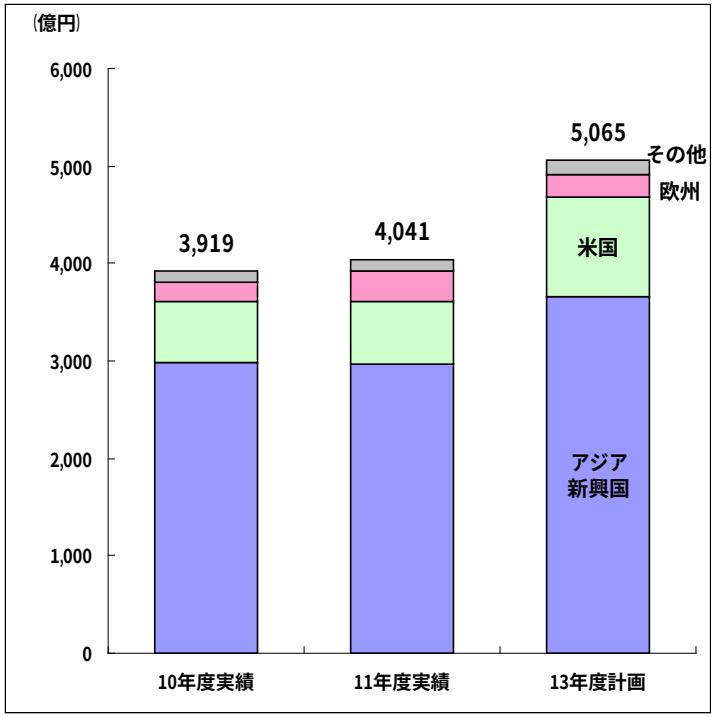
3．中期経営計画の推進状況（戦略編①）

海外事業展開

u 海外製造･販売拠点を拡充し、成長市場において増販を図る

セメント事業	北米･中国事業の拡大･強化
銅事業	銅加工品の新興国市場への展開
加工事業	超硬および高機能製品の海外販売網の拡充、海外製造拠点の強化
電子材料事業	デバイスの海外拠点の更なる活用
アルミ事業	押出熱交材のグローバル展開 ボトル缶のアジア･オセアニア地区需要の開拓

地域別海外売上高（※）



※金地金輸出金額を除く

3．中期経営計画の推進状況（戦略編②）

マテリアルプレミアム

- 製錬・セメント資源化システムの最大活用
- 難処理廃棄物の受入拡大
- 家電リサイクル事業の新興国展開

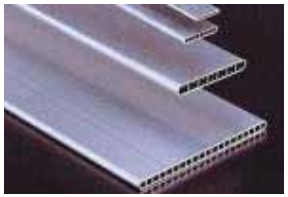
環境リサイクル事業部

- 部門横断的な地域戦略・マーケティングの実行
- 自動車、エレクトロニクス、省エネ／新エネルギー関連製品の拡販

端子・コネクタ材料

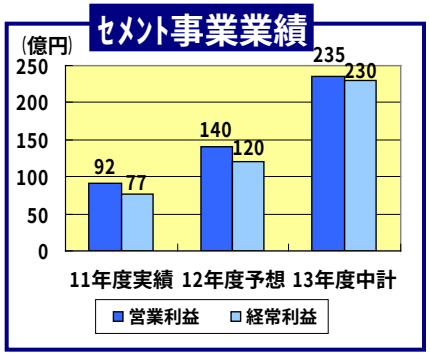
超硬工具（インサート）

サージアブソーバ



アルミ多穴管

4. 個別事業の取り組み (セメント事業)



国内

◆復興関連事業への取り組みを推進

➡ 供給体制整備、瓦礫処理

◆リサイクル処理の高度化

➡ 一般焼却灰、管理土、難処理物

ロングビーチ・ターミナル

北米

◆需要増加に向けた対応

➡ 輸入ターミナル増強、混合材輸入

◆生コン事業の拡大

➡ 地域展開、価格回復

排熱発電設備 (烟台)

中国

◆コスト競争力の向上

➡ 排熱発電設備、環境事業への準備

◆高強度品市場拡大への対応

➡ 高品位市場での強みを発揮

4. 個別事業の取り組み (銅事業)

鉱山

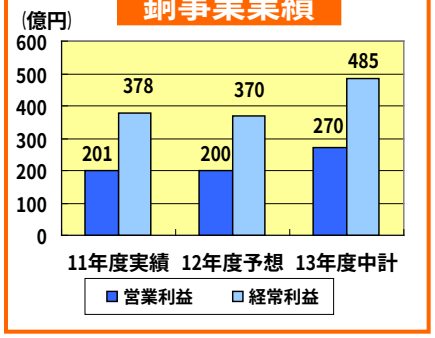
◆既稼動事業の最適化

➡ ハックルベリー、カッパーマウンテン

◆探鉱・新規案件の推進

➡ フィジー、豪州等

銅事業業績



製錬

◆買鉱条件の改善

➡ 市場の環境変化を確実に捉える

◆高付加価値リサイクル品処理の拡大

➡ 金銀滓増処理・増集荷体制の整備

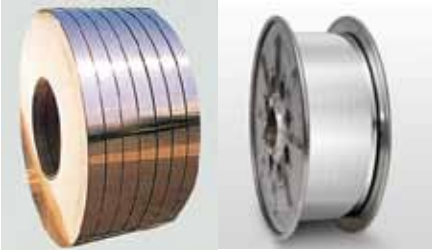
金銀滓

伸銅

◆自動車関連需要の取り込み強化

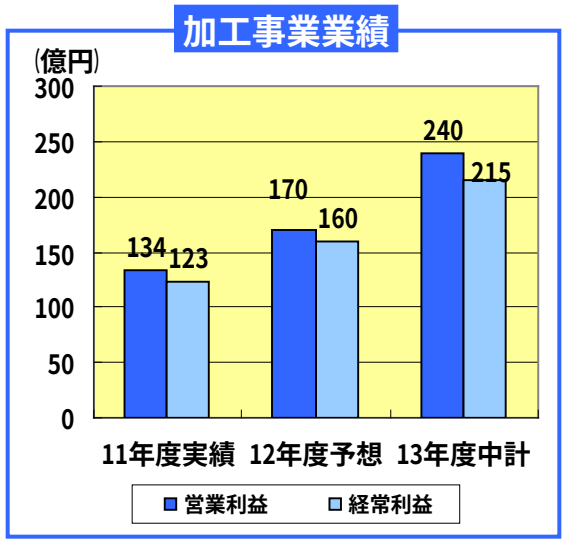
◆新興国市場への展開の推進

◆省ｴﾈ/新ｴﾈﾙｷﾞｰ分野市場の開拓



自動車向け端子材
(銅条)

4．個別事業の取り組み（加工事業）



超硬

◆**海外販売網の拡充**

➡中国内陸、ｲﾝﾄﾞ、ﾌﾞﾗｼﾞﾙ、ﾛｼｱ他

◆**海外製造拠点の強化**

➡製造の多極化、最適生産体制の構築

◆**新製品の市場投入**

➡技術力を活かした製品での差別化

(超硬) インサート新製品(上左)
カッター新製品（上右）
(焼結) 環境対応車部品（下左）

高機能

◆**中国・東南ｱｼﾞｱでの製・販強化**

➡広東粉末冶金工場の立上げ

➡ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ向け等、二輪用部品増販

◆**ｽｰﾊﾟｰｱﾛｲのﾘｻｲｸﾙ事業を推進**

➡ﾆｯｹﾙ、ﾚｱｱｰｽ等を回収・再利用

4．個別事業の取り組み（電子材料事業）

シリコン

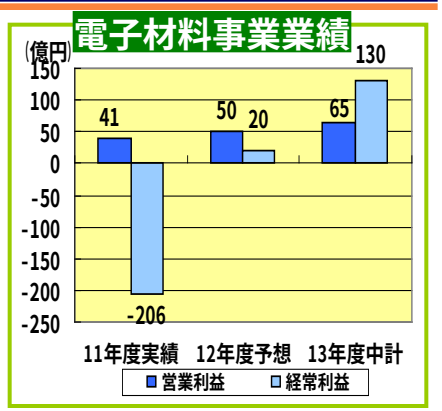
◆現下の厳しい需要環境にも耐えうる生産体制へ

➡ ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ（日米）での生産体制最適化

➡ ｺｽﾄﾀﾞｳﾝの徹底

◆技術開発の強化・ｽﾋﾟｰﾄﾞｱｯﾌﾟ

➡ ﾊﾟﾜｰ半導体向け製品上市の早期化



機能材

◆有力顧客における高シェア確保

➡ 営業・技術サポート体制の拡充

◆ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ｼﾅｼﾞｰの活用

➡ 開発・ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの協調推進

デバイス

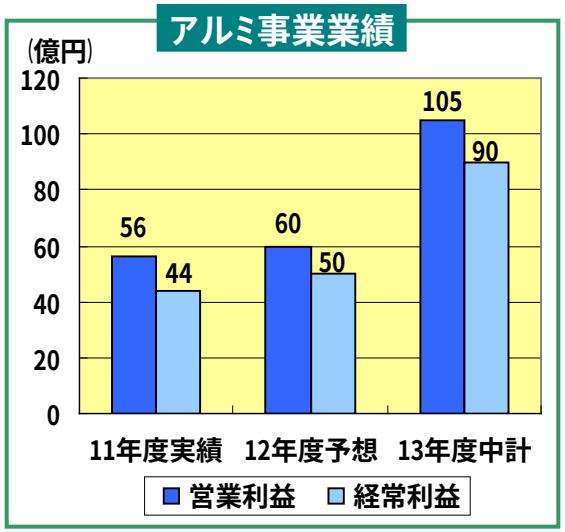
◆コスト競争力の強化

➡ 海外拠点の更なる活用

◆戦略製品の早期上市化

➡ 高付加価値製品の開発スピードアップ

4．個別事業の取り組み（アルミ事業）



圧延加工

◆缶材をﾍﾞｰｽﾛｰﾄﾞとした板事業強化
➡品質･生産性向上、APEX缶材開発

◆押出熱交材のｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ展開
➡新興国需要増加への取り組み

製缶

◆ボトル缶の拡販
（国内）茶系飲料等、新需要分野
（海外）ｱｼﾞｱ･ｵｾｱﾆｱ地区需要の開拓

◆素材技術と一体となった軽量缶開発
➡ＡＰＥＸ缶、軽量蓋（ＮＥＯ）

リサイクル

◆Can to Can リサイクルの推進
➡ｸﾞﾙｰﾌﾟ･ｼﾅｼﾞｰを活かしたUBC一貫鋳造

5. 震災復興・新ｴﾈﾙｷﾞｰ拡大への貢献

基礎資材供給

◆セメント、生コン、その他護岸用ケーソンなどの建設・土木用資材

◆建設・電力用銅線および建設用各種伸銅品、通信用ケーブルなど

震災瓦礫処理

◆ｾﾒﾝﾄ・岩手工場の地許一関市の廃木材・廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸなどを処理中

◆埼玉・横瀬工場においても埼玉県からの要請に基き、実証試験を実施

除染事業

◆原子力ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞや放射線管理に関する技術・装置を応用して福島県域の環境修復事業に参加・活動中

地熱発電

◆当社ｸﾞﾙｰﾌﾟの保有する地質・掘削等の総合資源関連技術を活用、現状2ヶ所を運営

◆今後とも重要な新ｴﾈﾙｷﾞｰとして拡大を目指す

まとめ

◆中期経営計画を着実に推進。

海外市場展開、ﾏﾃﾘｱﾙ･ﾌﾟﾚﾐｱﾑ実現を軸とした計画の推進により目標達成に向けグループの全力を傾注

◆ﾘｻｲｸﾙ･新ｴﾈﾙｷﾞｰ等の成長分野に注力。

循環型社会への移行に合わせた事業体制の転換を進めつつ、これらの技術･資源を震災復興への貢献にも積極的に活用

◆今後の環境変化に機敏に対処してゆく。

変化のスピードに遅れることのない、的確なﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟﾌﾟﾗﾝの事前準備とこれらに基く経営判断

◆お問合せ先◆

三菱マテリアル株式会社　広報･IR室

〒100-8117　東京都千代田区大手町1-3-2　経団連会館

TEL：03-5252-5206　FAX：03-5252-5272

URL：http://www.mmc.co.jp/

本資料における見通しは、本資料発表日時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、本資料業績予想と大きく異なる可能性があります。